向陽新聞
高知市塩屋崎町1の2
土佐中・高校新聞部
編集人　川口　清史
発行人　市原　真仁
印刷　高知印刷

高橋写真館
高知市京町北通
TEL ②6758

四月から道徳の時間特設

中学校

年間十時間に決定か

今学期末に全容発表

来年四月から本校（中学校）で道徳の時間を設けることが今年の四月に決定しているが、同時に本校職員による「道徳指導計画作成委員会」が成立し四月以来審議を続け、九月下旬各委員は今までの審議の結果をまとめ、各自具体案を校長に提出、今学期末までには校長が決定することになった。

道徳の時間特設はかねてから文部省の通達中にもあり、また来年度から中学校で実施される〃新教育課程〃にも明記されており、これを契機に、本校の道徳教育を体系づける意味も含めて、来年度から中学校で実施されることになった。その目的は「生徒として望ましい道徳的、習慣、心情、判断力を養いその向上を目指す」というものである。また四月の道徳教育実施の決定と同時に指導計画作成委員会が組織されたが、そのメンバーは中学校各学年主任の都築、玉真、不戸の三先生と中学主事河野、生徒部々長中山、特活部々長松浦の以上六先生に三枝先生を加えて七名である。同委員会はたびたびの審議のほか五月には松浦、三枝両先生の東京出張に際し、東京における道徳指導の状況調査を依頼、両先生は道徳指導モデル校である大森六中を視察した。また六月には高知大付属中の研究発表会に河野、松浦、中山の三委員が出席、同校の道徳指導の実際を見学した。それらの審議、視察の結果一学期末に同委員会は次のような結論に達した。

（一）道徳指導のための授業時間を新たに設けるか否かについては（イ）それだけの準備をする余裕がない。（ロ）他の教科の時間数が減る。（ハ）ホーム主任の負担が過重になるとの三つの理由からホーム・ルーム時間の一部をこれにあてる。

（二）年間約三〇時間のホーム・ルーム時間のうち一〇時間（一学期4、二学期4、三学期2）を道徳指導にあてる。

（三）主題は各学年につき年間五主題（一主題に二時間をかける）で、それらは文部省の指導要領を踏まえた上で決定する。

（四）各学年の指導テーマは文部省の指導要領にしたがい、第一学年では、日常生活の基本的行動、第二学年では、道徳的判断力と創造的な生活態度、第三学年では、民主的な社会および国家の成員としての道徳性とする。

（五）指導にはホーム主任があたる。

同委員会は以上の結論と審議経過を本校各職員に報告、指導方法の具体案（時間数、主題など）のアンケートを求めた。その結果、「返信をもらいたい時は切手を同封する」や「窓の開閉をきちんとする」「他人の失敗を笑わない」などのものから「不言実行」「愛校心」などにわたる思い思いの主題が出されたが、結局同委員はこれらの決定に到らないまゝ、各委員がそれぞれ具体案を作り校長に提出し、最後の決定は校長が下すことになった。なお、現在校長はその整理検討中で、決定は今学期末になる模様である。

中二父兄談

道徳教育が来年から実施されるということは非常に喜ばしいことだと思います。一部の人達は道徳教育無用論をとなえていますけれど、やはりそれは必要な教育だと思います。特にこれからの若人が世界のどこの国の人とも肩を並べていくためには、社会道徳教育が絶対に必要だと思います。旅行してもハイキングしてもそれらの人達が帰った後に塵一つ落ちていない日本。公園に咲く花々が誰にも手折られることのない様な心豊かな日本を作るためには、今からの若い人達に社会道徳をしっかりと身につけて頂いて、この日本を本当に立派な国にして頂きたいという願いをこめて、道徳教育の実施を喜びたいと思います。

中三生談

今のホーム・ルームの状態は全くわるいので、その一部をとって活用してくれることはうれしいことで大いに期待している。

重要な指導テーマ

礼節指導が急務

校長談

来年四月から実施される道徳教育の指導計画は、現在「道徳指導計画作成委員会」の各メンバーごとにまとめられ校長に提出されているが、その決定を今学期末にひかえて曾我部校長は記者の質問に次のように答えられた。

記者　最後的な決定はいつごろになる予定か。

校長　とにかく来年からのことだから、なるべく早くと思って整理を急いでいる。遅くても今学期中には決定したい。

記者　教科書その他これに類するものを使用するか。

校長　教科書の使用は考えていない。とにかく本校の実状に即した指導内容を考えたい。

記者　それでは、各クラス担任教諭が自由にその指導にあたるのか。

校長　いや、学校としては一律の案を決定し、それに合わせて指導を行なっていきたい。まだ内容決定までにはいっていないが、たとえば生徒間の討論の形にしろ、読後感についての討論にしろ結局その〃テーマ〃が重要だから、その意味でいま検討している。

記者　年間十時間以上をやるには先生方に重荷がかゝるという結論が、さきの職員アンケートで出ているが、では十時間で効果があると考えているか。

校長　そういう意味で十時間にしたのではないはずだ。いま十時間以上を行なうほどの準備ができていないからだ。

記者　というのは、将来時間数やその他の点で規模を大きくしていくつもりか。

校長　とにかくやってみて、その時の状況に応じて時間数その他の点で〃変更〃はありうる。

記者　もしホーム・ルームの時間から年間十時間を道徳の方にまわすとすれば、現在あまり活発でないホーム・ルームが一層停滞する危険があるが。

校長　そうだ。僕としてもその点はよく考えなきゃいかんと思っている。現在のホーム・ルームのような状態では、ない方がましなくらいだ。そこで四月からの道徳教育の実施と同時に、ホーム・ルームの体質改善も併せて行なうつもりだ。現在、生徒部と特活部でその方の検討をしている。

記者　道徳教育で行う内容とホーム・ルームの内容との違いをどう考えているか。

校長　道徳の方は学校側でテーマを決定し、その点を各教諭が指導していくので、ある結論に達していくが、一方ホーム・ルームは各クラスでテーマを選び討論していくにも結論を急ぐ必要がない。そういう点が違うわけだ。

記者　しかし道徳教育の内容に討論形式をとり入れたとしても、なにも結論に達しようとする必要はないと思う。結論が出て初めてというよりも、途中の討論においてすでに得るところがあるはずだ。とすればテーマを学校で選ぶか生徒が選ぶかでたいした違いはないと思うが。

校長　しかし道徳教育では、理論だけでなく実践力をともなった指導という点が違うわけだ。

記者　四月からの実施内容だが、校長個人としてどんなものを希望しているか。

校長　現在整理中だから、いずれ全容を発表するが、第一に礼節の面での指導をしたいし、第二に社会の一員としての責任感をつちかいたいと思っている。

もり上がりなし

久しぶりの懇談会

昨年の六月以来久しくとだえていた〃校長と生徒との懇談会〃が約一年ぶりに九月十四日放課後、懇談室において開かれた。この日懇談室には、学校側から校長先生と平岡先生、生徒側からは高校のクラス代表各一名および生徒委員会執行部の合計二十数名が集まりお茶とお菓子をはさんで、終始なごやかなふんいきのもとに会がすすめられた。会は、まず最初に校長から生徒への要望があり、続いて〃運動会〃〃文化祭〃〃売店〃〃部の会計〃などについて話し合いがなされたが、いずれも出席者の研究不足や進行のまずさのために、問題の核心に触れることなく終った。

このように、この懇談会が予想外にもり上りのなかったことに対し委員会では、懇談会開催の発表が遅れ、生徒の間に徹底しなかったため、とみている。

主張

まず目的意義の確立

道徳指導実施に思う

来年度から本校（中学校）でも道徳教育の時間が設けられることになり、指導計画作成委員会が四月から審議を続けている。その目的を校長談話や同委員会のまとめた資料から綜合すると「生徒が社会の一員として当然持つべき道徳的な習慣、心情、判断力を養い、その道徳的実践力の向上を目指す」ということになる。現在までに指導計画作成委員会では（一）道徳の時間として新たに授業時間をふやさず、ホーム・ルーム時間の一部をこれにあてる。（二）ホーム主任が指導にあたる。（三）主題は文部省の指導要領をふまえた上で決定などの結論を打ち出している。これらはまだ決定したわけではないが、いまのところ以上の三点はまず動かないと見てよい。

ところで、学校がこんどの実施にふみ切った理由として、文部省の通達だけでなく、本校の道徳教育に一貫した体系を与え計画性のある指導を行って一層の効果をあげようという点を委員会はあげている。ということは裏を返せばまがりなりにも今まで道徳教育を行なってきたことになる。ではどんな形でと自問しても特別な時間をもうけたでもなし、結局その姿を明らかにすることはできない。即ち日常の勉強その他の学校生活の中でそれらは培われていたことになり、同時に家庭生活において培われてきたといっていい。

ところで同委員会は本校職員の間で指導テーマを求めるアンケートを取りその結果多くのテーマが出された。そのどれをとっても反対されるべきものではないが、またどれをとっても一朝一夕で培われるようなものでもない。いずれこの中のいくつかが選ばれて、生徒に迫ってくることになろうが、指導と名のつくもので、どんな手段をとろうと、その効果を期待できない。というのは、道徳とは単なる知識ではないからだ。塵が落ちていれば拾うべきかすておくべきかを生徒に尋ねる者がいるだろうか。知っていながらなぜ拾わないかと考えられる先生方は御自身で答えが得られないものか。清掃部の先生を除いて、落ちている塵を拾っている方を私はあまり見かけない。まして、この塵を拾うというのも一つの道徳的習慣であるとすれば、この習慣を培う最良の方法は、落ちている塵を見かける度に生徒を呼んで拾わせるか、あるいは先生方自身が拾うか、ではないだろうか。前者はなるほど拾う運動は習慣づくだろうが果たして「道徳的」の域まで達するだろうか。―ここでもう一つの解決策、即ち知識として頭へ入れれば良いと考えていられる方がいたら一言いいたい。あなたは、まじめに「あなたが口でいいさえすれば生徒はすべて道徳的に成長する」と考えていられるのか。そんな安易な考えで道徳を口にすることは全く恐ろしいことではないか―結局先生方（教育者）自身の道徳的な行為が先にあってこそ、はじめて生徒は迷うことなく道徳的成長をするのだ。換言すれば、指導ではなく〃感化〃こそ真の姿ではないだろうか。いまゝでそうであったろうし、今後もこれ以上のなにものも必要でないのだ。（それでもなお現在のまゝではいけないと考えられる方がいるなら、なにが不足なのかは自づから分かるだろう）

かって私達が中学校の時、礼のしかたや焼香のしかたなどをこと細かに教えを受けたことがあったが、その後家庭かその知識が役立ったものだ。先日校長は「道徳指導のなかで、礼節の指導が急務だ」と明言されたが、その範囲はどこまでになるかは別としても、役に立つ知識としての道徳教育は、効果もあろうし大いに結構だ。が、それなら何も今さら道徳指導の看板を掲げなくてもこと足りるような気がする。また校長の話していられる道徳指導とホーム・ルームの内容の相違点も、はっきりそれと認められない。それのみか、現在の決定事項やその他から推察してこの拙文の効なく来年から実施されるときには、他校でやっているように生徒間の討論の形がその中心になりそうだが、これすら現在ホーム・ルームでやっているクラスがあることを思えば道徳指導の特設の意義はますます拠を失なっていきそうだ。

委員会が明記している通り、ホーム・ルームの残り時間（年間18－20時間）を学級事務、レクリエーション等に使用することを前提にして指導計画をたてたのでは、せっかく芽ばえた生徒の自主性を摘み取る結果になりはしないだろうか。現在ホーム・ルームの体質改善を生徒部と特活部で検討しているそうだから、とにかく時間を二分した以上道徳教育の内容とは違った姿で登場してくるだろうが、ここ何年もの間、不活発の声を聞き流したまゝで、適当な指導を怠ったことから考えてどんなものがあらわれるか大いに興味がある。

欧米のような一貫した宗教的基盤のない国では、道徳指導は最も困難な仕事の一つだろうし、ことに道徳は心の問題であり、単なる知識の羅列ではないことを熟慮するとき、中途半端な方策は、かえって混乱を招くだけであってみれば、誰もが納得のいく確固たる意義を打ち出し、その上で前進することが、この際最も必要なことではないだろうか。

ひとこと

〇…話はちょっと古くなるが、今から約一年ぐらい前英語の一先生、外国人にリーダーを読んでもらってテープにおさめ、発音の悪い本校生に聞かせてやろうと教室に持ち込んだ。さて電源を探す段になってさあ困った。ない。どこを探してもない。しかしここで諦めたら男が捨たる。両隣を探したがない。二つ目の教室にもない。三つ目の教室にやっと電源を見つけた先生、欣喜雀躍して長い長いコードを引っぱってもう一度。しかし足らなかった。あと二・三メートル先の電源をにらんで、コードの先をしっかりと握ったまゝこの先生無念の涙を飲んだ。

配線工事はなぜできぬ

〇…さて、つらい梅雨がやっと過ぎたと思ったら今度は台風シーズン。水爆の二千倍のエネルギーかどうかは知らないが、遥か彼方にいながら雨を降らす。雨が降れば教室が暗い。本校のクラス数からいえば、その三分の一しか蛍光灯がついていない現状から察しても、過ぐる日お辞めになった某先生のおつむを、なつかしく思いおこしている御仁もさぞや多かろう。

〇…ところで、先日行なわれた生徒と校長との懇談会の席上でも、多くのクラスから蛍光灯設置の声が出たようだ。これに対して校長から「現在本校における電気配線はその極にきていて、これ以上電源を引いたり、根本的な工事をしなければならず、それには沢山の費用もいるし、その必要を感じていない」という返答があった。しかし一方では、講堂に暗幕がとりつけられ、新グランドには水道が引かれた。水道設置には故人からの十万円が使われている。配線工事にいくらかかるかは知らないが、これらの金がその工事のために使われていたら、もっと喜ばれていたことだろう。さきの英語の先生にしても、自分の時間をさいて録音までしながら、その計画を中止せざるをえなかったことは、さぞ残念だったことだろうし、生徒にとっても大きな損害だ。曾我部校長就任当時テープ・レコーダやレコードによる（視）聴覚教育開始の動きが興り、私達を喜ばせたが、最近これもすっかり絶えてしまった。その原因がこんな所にひそんでいたとすれば、この責任を誰が負うべきか。

〇…目の先数センチの黒板とか教卓のノートを見ていればよい先生方に、蛍光灯の必要さがわからないように、この願いが学校側に理解されないとしたら、私の口を縫いつけてもらいたいものだ。

×××

（T・K）

―食中毒事件のかげに―

ありがとう大聖寺高校

先日行なわれた高二の修学旅行においてその最終日別府から高松までの船中で、第一班第二班合わせて百名以上の中毒患者を出し、特に第二班は重症患者を高浜港で下して松山市の病院に入院さすなど大さわぎとなったが、この騒ぎの蔭に第二班と同じ船に乗船していた石川県立大聖寺高校看護科女生徒の親切な看病があり、もしこの助けがなかったなら、とみんなに感謝されている。

第二班の生徒は十月六日夕刻、別府発のこがね丸に乗船。六時頃から腹痛を訴え、下痢、嘔吐の激しい者が続出、最初は単なる船酔いくらいに考えて、簡単な酔いどめ薬などを飲ませたりしていたが続々と出る患者に、引率教員の持参した薬ではどうにもならず、全くお手あげの状態であった。この時修学旅行のかえりで丁度同じ船に乗り合わせていた石川県立大聖寺高校の先生の御好意で、同部の看護科女生徒が患者の看護にきてくれ、別府から高松までの十時間余り入れかわり立ちかわりあらわれる患者を相手に、休みなく薬、注射から嘔吐の世話までしてくれた。彼女らの手厚い看護、非常な親切にはいくら感謝してもしきれない位であった。

高浜では森下先生および付添生徒五人と共に下船し、松山市内の二病院に入院、またその後にも約三十人の重症患者を出し、高松の病院で多数が手当てを受けた。幸いに全員それ程重症ではなく、松山に入院した者もみんなより一日遅れただけで、全員無事自宅に帰ることができた。なお、この食中毒は時間その他から考え合わせて、旅行の最終日に別府で食べた昼の弁当のせいと見られている。

引率森下先生談

大聖寺高校の方々も、長い旅の途中でずい分疲れていらっしゃったでしょうに、高浜下船の際には桟橋にまで下りて介抱していただいたりその親切にはただもう感謝の気持ちで一ぱいです。

二T窪田君談

僕は相当ひどかったんですが、無事にかえれたのも大聖寺高校の人達が一晩中寝ずに看病して下さったおかげです。高知へ帰ってすぐ礼状を出しましたが、今、お世話になった者みんなで何かお礼をしようと計画しています。

委員長に渋谷君（2T）当選

高校新執行部きまる

本年度第十三回高校生徒委員会はさる九月二日午後一時半より開かれ第二学期の役員改選を行った。改選は二学期という大事な時期であるだけに一時間半におよぶ慎重審議の結果次のように決定した。

委員長は昨年度三学期についで二度目の渋谷君（二T）副委員長は横山（二K）織田（一H）両君書記は松岡さん（二T）岩村さん（一O）議長、副議長は谷内君（二K）岡崎君（一K）にそれぞれ決定。なお副議長はさきに決定していた吉村君（一S）が辞退したために、再び選挙が行われ岡崎君に決定した。

今回の決定に対し、委員長の渋谷君が二回目であるだけにこれを鋭く批判する声のある一方、他方では今までとかく生徒会が学校行事を行なうだけで、生徒会自体の活動や一般生徒との結びつきの少なかった点の改善を期待する声もあるようだ。これらの声に対して渋谷君は「なるほど二学期という時期は行事が多い。しかしそれにせよその行事に追いまわされるにとどまらず、一般にいわれているように生徒会自体の活動を活発にし、生徒とのつながりを増すようにつとめたいと思っています。そのためには生徒会だけがその方向に向くのではなくして、同時に生徒間にも生徒会をもっと理解、認識し、生徒会活動の活発化を図るような空気がわいてきてほしいと思います」と語った。

本校南四国責任校に

全高新連総会開く

第十二回全国高等学校新聞連盟大会は、早稲田大学にて、二日の理事会議を皮切りに開かれた。

今回も南は鹿児島から北は北海道まで計百三十六校、七百余人の高校新聞編集者が一堂に会し、終始活発な意見の交換を行い、一般活動方針などを決議し、それぞれ再会を約して八月五日、四日間の幕を閉じた。この大会で、新理事長校に慶応高校、副理事長校には、東海高校と関西学院高校の二校をそれぞれ選出した。本校も南四国ブロックの責任校に再選され本連盟の今後の発展に協力することとなった。

机と腰掛をプレゼント

〃愛仁園〃など五施設へ

十月九日、社会福祉法人高知慈善協会に、本校の余っていた古い机と腰掛三百三十組を寄贈し、関係各方面に喜ばれている。これは「個人ではなく、団体などのような施設にでも、無償で、余っている古い机と腰掛を寄贈する」という主旨のもと、九月の中旬、本校が市内の各施設に問いあわせたところ、去る十月二日同協会より申し込みがあったため寄贈したもので、これらの机と腰掛はさっそく同協会を通じて、次のように分配された。

養護施設	愛仁園	一〇〇組
母子寮、	撫子寮	五〇組
保育園、	小高坂双葉園	五〇組
同	潮江双葉園	一〇〇組
同	本町保育所	三〇組
計		三三〇組

なお本校は六月にも〃博愛園〃九月にも〃子供の家〃に机と腰掛を寄贈した。現在、本校生徒のみごとな彫刻の刻まれている古い机と腰掛は、めぐまれない多くの施設の子供達に愛用されている。

中学生徒会も

新会長に北村君（3B）

去る十月七日講堂において中学校生徒会の役員が改選された。各候補の演説の後、投票が行われ、即日開票の結果次の八人が新しく役員にえらばれた。会長北村直人（三B）副会長石川秀一（三C）沢田克徳（二A）中央委員武内順一（二D）竹内治（一D）西岡康夫（三B）藤本寿彦（二B）楠目精四郎（三C）

北村会長談

少しでも中学生徒会の活動を活発にし、一般生徒とのつながりを増したい。また生徒諸君の協力を望む。

亡き先輩の遺志で

水道設置

今は亡き一先輩の志で、水がなくて不便がられていた新グラウンドに、水道が備えつけられた。

この先輩は、今年の春、東京大学法学部を卒業後、八幡製鉄所へ勤務されていた、本校三十二回卒業生の入江賢氏で、去る六月交通事故で死亡されたが、日頃世話になった母校にいつかは恩返しをしたいといつも思っていた入江氏の願いを、御両親が本校に十万円寄贈という形でかなえて下さったものである。

今度、備えられた水道はその御厚意を利用したもので、水道栓は新グラウンドの弓道場と倉庫の中に取りつけられている。入江氏の御厚意に感謝して、くれぐれも乱暴な取り扱いをしないようにと校長先生は語っている。

らくがき

長かった夏休みも終り、いよいよ秋がやってきました。「天高く馬肥ゆる秋」「秀才生には勉強疲れてやせる秋、我々劣等生には大いに遊んでガンジョウになる秋」…土佐高生はよく遊びますからやせるなんてことはありませんね▼秋は台風の来襲する時、先日の十八号は大したことがなくてホッとしましたが、わが土佐高にも最近またまた〃第××号トウナン台風〃が発生、本校上空に停滞しているようです。台風を防ぐには根本的な対策が必要、そのためには土佐高政府は道徳教育をやるとかやらないとか、三年計画とは気の長い話ですが、我々は〃友情・相互理解〃の防波堤をつくり、台風を防いで被害を最小限にくいとめましょう。被害総額、靴十足、財布二個…なんてことにならぬよう▼秋はまた紅葉の秋、受験生にはねじりはちまきで青くなる秋。高三の受験生のオニイチャン、オネエチャン方も気が気でないでしょう。だから我々がいったでしょう、高一、高二の時からまじめにムクリなさいって（失礼）後には沢山の前途有望な後輩がひかえていますから、大いにがんばって下さい。いくら落葉の秋だなんていっても、今から試験に落ちることを考えていてはいけません▼秋はスポーツの秋、すでに高体連も行なわれましたが、残念ながら本校の選手諸君、大活躍とまではいかなかったようです。しかし、近頃土佐高はスポーツが弱くなった、などという悪口を聞きますが、決してそんなことはありません。運動部の諸君もなかなか熱心にやっています。ただ大概の部員が高三になると部活動から遠のいて、受験勉強に精を出すという習慣を忠実に守るため、相当の戦力低下も免れないようです。高三を卒業するまで部活動をやって、それで大学へもゆうゆうとパスしてやろう、ぐらいの気構えが欲しいものです▼〃桐一葉落ちて天下の秋を知る〃桐の葉を落としてやってきた秋もやがて去って、はや冬がやってきます。運動会、修学旅行、文化祭……と、この二学期は授業料のたゞ納めになる気配濃厚ですが、そこは土佐高生らしく、遊んでいながらも何らかを学びとり、授業料を損せぬよう気をつけましょう。学問の秋スポーツの秋に幸あれ。

（H・T）

イリキ眼鏡店
高知ハリマヤ町　電話998番

暖房器は
京町
穂積電気商会
TEL ②6646

創業明治二十年
老舗　中納言
高知市大橋通　電話(二)〇五七三 二九七九番

参考書・専門書の御用命は
金高堂書店
TEL ②8285・8296
土電会館書籍部
TEL ②代0111

土佐高の店
凡ゆるメーカー品の揃った
白亜堂
帯屋町東宝劇場西三軒
TEL②2473

土佐高指定店
帽子←帯屋町二丁目
元田帽子店
TEL②二五九一

楽しい学生生活の記録を
あなたのアルバムに残しましょう
キタムラカメラ
堺町19　TEL② 3154～6

高知一の定評　うまい鮨は
高知大丸西口前
菊寿し
電話②三三六六
お二階も一般席ですので
お気軽に御利用下さい

蛍光灯は必要ないか

全クラス数のわずか1/3

校長　その必要を認めず

九月十四日の放課後、懇談室において開かれた「校長先生と生徒との懇談会」の席上生徒代表から「全教室に蛍光灯をつけて欲しい」との要望が出た。

これに対し校長先生は「自分で照度計を持って各教室を回った結果必要と思われる教室には、すべて蛍光灯をとりつけた。だから今つけてない所は雨の日ぐらいは我慢して欲しい。また現在天井裏の配線が限度にきているので、これ以上とりつけるとすれば全部の配線をやり直さなければならないから、自分としては今その必要は感じていない」と答えられた。

現在蛍光灯のついているクラスは階下八クラス、階上二クラスで全校二十七クラスの約三分の一の十クラスしかない。そのため残りの十七教室では、天気のいい日には割合明かるいが、雨の日や曇り空の日などには、後の方の人や視力の弱い人は黒板の字が読めず、隣の人に聞いたりしてようやく授業についていくというありさまで、生徒達は蛍光灯をつけてくれない学校側に対し強い不満の意をあらわしていた。特に、高一のT・K・S、中三のA・B・D、中二のAなどの各教室では、あたりの暗さを打ち破るような明かるい蛍光灯の光に包まれている食堂がすぐ目に入るので、うらめしいやらうらやましいやらで不満をいよいよつのらせている。

一方先生方は、暗い教室で不自由な思いをしている生徒達の気持を知っているのか知らないのか、年度始めに学校側に出すいろいろな要請の中にも蛍光灯設置の件を誰一人として含めていないため、生徒の間からは不信の声もあがっている。

高一M君談

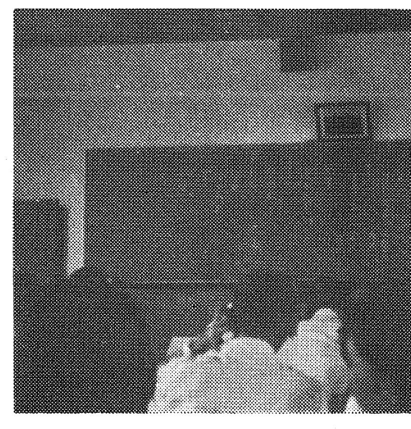
僕は蛍光灯のついている明かるい食堂の中に入って行った時、うどんは目で食べるんかなと思いましたね。

高二Tさん談

雨の日なんか黒板の字が見えなくて余計な神経をすりへらすので、気持よく能率的な勉強をするということに対したしかにマイナスになっていますね。

生徒委員長談

何はさておいても早く蛍光灯を全教室につけて欲しい。またつけているのが当然でしょう。学校側が金銭上の都合でつけられないんなら、委員会も全面的に協力しましょう。食堂にあんなにつけているのに教室につけてないなんて第一おかしいですよ。



雨の日はうすぐらい教室、黒板の字もやっとの高二教室

中山　永野　先生八重山へ

琉球学術調査団員として

日本列島のはて南西諸島の最南端に位する八重山群島に、十月二十五日から十一月二十日迄一ケ月間、高知新聞社から十一人の団員による琉球列島学術調査団が派遣されることになり、本校から中山、永野両先生が参加される。

同社は、以前にも中山先生などを含む学術調査団を、三十一年には奄美大島へ、三十四年には沖の島へそれぞれ派遣し、その成果が非常に大きかったため今度三たび実施が決まったもの。

一行は十月二十五日午後五時三十分高知港から関西汽船で出発し途中、神戸、沖縄に寄港し、二十七日ごろより目的地八重山群島の西表（イリオモテ）島を中心に石垣島や与那国島などで調査する。

団員のうちわけは地質一人、民俗学一人の計二人による地理調査班と、中山、永野両先生の参加調査される動物四人、植物四人の計八人による生物調査班、および高知新聞の記者一人で、向こうではそれぞれ別れて調査する予定である。

八重山群島は熱帯および亜熱帯に属するため、西表島などは原始林もおいしげってジャングルをなし、生物も豊富でまったく興味深く、学術的にも非常に価値のある所だそう。

出発を三週間後に控えて中山先生は、向こうには旅館がないので民家に泊らなければいけない。また寝ぶくろとか、毛布はリュックに背おっていく。それに新鮮な水や野菜がないので非常につらいだろう。衛生的にも悪く、うっかり水を飲むとアメーバー赤痢にかかるかもしれないし、蚊にさされるとマラリアになるかもしれない。また何時どこからハブがでてきて殺されるかもしれない。ひょっとするともう帰って来られないかもしれないね。と、笑って話された。

ちょっと失礼

松尾功禄先生

高知の穀倉香長平野の早苗もようやく伸びかかったある日、土佐山田町の松尾先生のスイートホームをお訪ねした。

風通しの良いご夫妻の居間に通されて一眺めすると、そこはチョンガーとはチョット違ってきれいに掃除されてあるし、タンスの上には可愛いいお人形さんが飾られていた。

「まあゆっくりして」とアルバムを出してくださったが、写真という写真がお二人仲良く並んでいるものばかりなので、何だか見せつけられているような気がしてきた。

「今日は実はオートバイで遠出をするつもりだったんだ」と先生がいわれたので記者一同大いに恐縮していると奥さんが「いいのいいの、たまには家にいなきゃ」と言ってくださったが、その後がいけない。

「そう言えばあなたちょっとやせたんじゃない」「そういう自分は好きなだけ太って」「おとなしく家にいるからよ」（笑いながら喧嘩してりゃ世話はない）

「先生とのお知りあいは？」と奥さんに矛先を向けて見た。「そうネー、いつのまにか目の前に現われていたワ」「そうだネ。ごく自然だったネ。みんなは無理な交際をしようとするからいけない。自然にいかなきゃ。神がうまく調整してくれるから」だそうである。ちなみに先生がお好きなことばは「自然と調和。ナチュラルとハーモニー」とのこと。

モットーは　自然と調和

交際もナチュラルに

先生は酒、タバコいっさいだめで映画はサザエさんや二等兵物語などをよく見にいき、「劇中の主人公の気持にすぐなって、ボロボロ泣けてくるんだ」そうだ。先生は生まれは神戸だが、四才の時から、早稲田大学の数学科をでて本校へ来るまで東京で育ち東京に住んだ江戸っ子。奥さんは高知の人で、土佐教会で知りあったそうである。

音楽と先生も切り離せないが、バイオリンは中学時代から、コーラスは学生時代いろんなコーラスグループに入ったり、結成したりしてきた。音楽以外の趣味はオートバイと登山で、オートバイは田内先生の影響、登山は昨夏、生徒を連れて三嶺へ登って以来めっきり自信をつけたそうである。

「刺傷事件以後初の〃一寸失礼〃というわけで、事件のこと、それ以後の学校生活に対してのお考えは？」の記者の質問に「我々教師の自覚が足りんのじゃないだろうか『教師だって人間だから何もかもできるわけじゃない』という人もいるようだが、ボク自身は教師は指導者だからそれだけの心構えが欲しいと思っている。それに最近以前にもましてことばづかいが悪くなった」とチョッピリ痛いところを突かれた。最後に「家庭での松尾先生を一言」の質問に「そーねー」と奥さんはしばらく考えておられたが、やにわにこう言われた「見た通りですワ」（K・K）

松尾先生御夫妻と愛用のオートバイ

講堂の天井に大穴

九月二十八日の昼休みに講堂の天井に直径二十センチ程の穴があけられた。

これは、中三の男生徒数人がバレーボールをしているうち、興にのったあまり、投げつけたボールが天井を突き破ったものである。事件の直後、体育科の先生は次のように語られた。

この講堂の天井は音響効果を良くするため、テックスばりにしてあるからあまり強くない。以前から注意はしていたが、この間の中学のクラスマッチ前後から、講堂の使用が非常に乱れている。文化祭も近くなったし、また生徒に反省をうながす意味で、各自が自覚するまでしばらくの間、休み時間の講堂内でのボールの使用を禁止する。

貝の新種発見

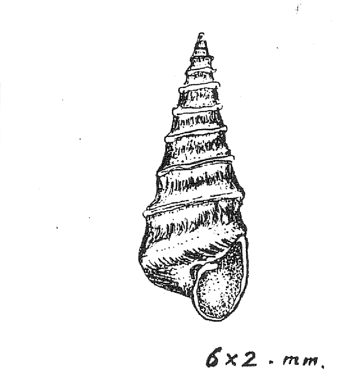
中山先生またお手柄

中山先生が、またまた貝の新種を発見された。

この貝は、土佐沖二〇〇メートルの海底に住んでいるクマサカナマコの体表に付着していたそうで、発見者の中山先生は、学名を、Odostomia nakayamaiオドストミアナカヤマイ）和名をナカヤマクチキレモドキと命名された。

この貝を専門的に説明すると、軟体動物門、後鰓目、トウガタガイ科に属する。貝殻は白色で光沢があり、大きさは、高さ六ミリメートル、巾二ミリメートルの小さいもので、螺層は十階あり、幼生時代にできた貝殻は左巻であるが後に右巻にかわる。貝殻の軸層には一個のひだがあるが、歯舌もエラもなく、カタツムリのように、雌雄同体であるが、頭に触角はない。これは、九州大学の波部忠重博士に確かめてもらった後新種と判明したので、いずれ専門雑誌に発表される。

これで、中山先生の発見した貝は九州の山中でみつけた、ナカヤママイマイをはじめ、海の貝ではナカヤマムシロ、ナカヤマイトカケ、ナカヤマザンショウ、ヤブザメガイ、ヒナコロモガイなど十種ぐらいとなった。


6×2.mm.
Odostomia nakayamai
ナカヤマクチキレモドキ
土佐沖 200m.

十二万で暗幕を

まだ足りぬ設備

このほど十二万円の費用をかけて講堂に暗幕が取りつけられた。

これは、いまゝで芸能発表会を催すのに、中央公民館を借りていたものが、最近とくに日程その他の点で思い通りにならなくなったので、これを機に学校内で開催できるようにしようと取りつけられたもの。学校側は、芸能発表会の他に、映写会（映画会）などを行う計画をたてているが、いずれにしても、まだ照明装置、舞台の幕、スクリーンなどの諸設備を設けなければならず、まだ多くの費用がかかるので、いまのところこれらの設置がいつになるかは未定である。

この暗幕設置に対して、前々から「芸能発表会を学校でやってほしい」と要望していた一部文化部は歓迎しているが、ちょうど毎日の授業に関係する蛍光灯設置の要求が、費用の点で拒絶された時だけに、生徒の間の不満の声も強い。

なお、ごく最近この暗幕の一部がこわされたので「ふだんは、取りはずすことになるかもしれない」と体育科の先生は語っている。

神崎さん渡米

昨年AFSの留学生試験を受け、見事パスした二Kの神崎紀久子さんは去る八月六日高知を出発、同十二日羽田から空路でアメリカへ向った。出発にさいし神崎さんは「日米親善の役目を少しでも果たし、アメリカという国を理解し、また日本をよく理解してもらうようなことをしたい」と語っていた。なお神崎さんはむこうの高校で一年間勉強し、来年八月に帰ってくる予定。これで本校からのAESのアメリカ留学生は三名になった。

高体連終る

九月十八日から、県教委などの主催による第十四回高知県高等学校体育大会が、つづいて十月四日から、第十五回高知市中学校体育大会が開かれた。

今回の高体連は、あいにく〃第二室戸台風〃のため予定を一日遅らせ、十八日に台風一過秋晴れの高知市で開かれた。その結果、本校の庭球（団体、個人）ハンドボール、女子の弓道がそれぞれみごと優勝をとげた。一方中体連も〃台風二十三号〃の余波をうけ開会が一時間ほど遅れたが、無事それぞれ競技に入った。

運動會

ヤグラの設置も許可

例年より一週間遅れ

恒例の運動会は例年より一週間ほど遅れ、きたる十一月五日（日）に開かれることになった。これに先立ち高校生徒委員会は小委員会を結成し審議をつづけた結果、場所、採点方式、種目、ヤグラの諸事項に関する案を生徒委員会に提出、修正案なくそのまゝ通過した。それによると競技場は例年通り旧グランドで、採点方式も新しい具体案がなかったため従来通り平岡方式に決定。種目については今年は日程が一週間ほど例年よりずれるため、五十三種目から五十種目に減少した。

またヤグラの設置に関しては、例年不祥事が起りがちなので、委員会の中にもかなりの反対の声があったが、結局ヤグラの構造を規定するということで設置が決定した。また大きく変ったところでは、全校生徒による入場行進が行われること。これは例年ならグランド後方に集合して前進するだけであったのが、今回からはマーチに合せて全員が行進することになった。委員会もこれには力を入れており、かなりの成果が期待される。また従来採点されていなかった仮装行列も高二の混合種目として採点することになりいっそうその盛大化をはかっている。

八泊九日で

高校修学旅行

去る二十八日、二十九日の二日にわたり、高校二年の生徒二百六十九名が二班に分かれて、八泊九日の日程で山陰、北九州への旅に出発した。

第一班はH・O・Sホームの生徒百六十五名で、二十八日午後十一時半高知駅を出発し、松江―出雲大社―日御崎―博多―長崎―雲仙―島原―熊本―内牧温泉―阿蘇―別府という順序でまわって、今月六日帰高。第二班は残りのT・Kホームの生徒百四名で、二十九日夜出発し、第一班と同じコースを辿って十月七日帰高した。

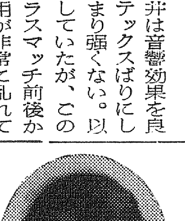
今回の参加者二百六十九名というのは、高二全生徒の約八十四％にあたり、数年前参加者の激減のために、修学旅行廃止が唱えられたりしたのもまるで嘘のよう。

なお、今回の旅行の費用は、交通費、宿泊料、弁当代その他合計して一人当り七千九百円。付添の先生は、第一班はH・O・Sの各ホーム主任および図書の川田さん。第二班はT・K各ホーム主任および森下先生である。

声

米国生活を省みて

曽我部律



昨年の夏、AFSスカラシップによって、高校留学生として渡米してはや規定の一年は過ぎ、再び土佐高で机を並べることになった。こうして筆山を眺めていると私の人生に瞬間的に起きた生活の変化、環境の変化を到底信ずることが出来ない。しかし、あちらの人と、こちらの人の感覚、考え方の相違に、しばしば戸惑うことがある。すぐ身近に例をとると、始業式の時だった。校長先生の式辞、遠征報告の後になぜ皆が拍手をしなかったかという疑問である。毎学期始めと終りに同じことをいわれていれば、たいして感激しないかもしれない。

しかし遠征報告は、いかに惜敗したとはいえ、選手の健闘を称えるべきだと思う。確かに報告の仕方は一生徒会議長立候補演説の時も思うのだが、スピーチクラスの必要性を痛感させるほど下手だった。冷やかし半分でなく、心から拍手を贈った者が、いくらいただろう。そうかと思うと、教務の注意や伝達に、何のわきまえもなくパチパチやる者がいる。もう少し自個の意思表示としての拍[illegible]と柄をよく判断して、すぐ[illegible]思う。

日本の学生は、古くから[illegible]法を厳しくしつけられ[illegible]しいものと思っている。ア[illegible]の学生は、作法にわりあい[illegible]なように誤解されやすい[illegible]験したところでは、彼等の[illegible]かに無意識的に、これを身[illegible]ているようだ、こんなこと[illegible]た。AESの資金を集める[illegible]タレントショウが催され[illegible]ES生として一役買って[illegible]の始めに、私が学んだテ[illegible]スクールの校歌を独唱し[illegible]私が歌い始めると、誰[illegible]なく全員が一斉に起立し[illegible]で静かに物音一つ立てなか[illegible]私は意外な礼儀正しさ、校[illegible]の態度に一瞬ドキッとし[illegible]声も震えるようだった。私[illegible]リカ高校生に感心し、学[illegible]ろは数多い。

私に、この貴重な経験[illegible]スを与えて下さった偉大な[illegible]機構に感謝し、国際平和[illegible]に、より多くの若い人々が[illegible]解に努めることが出来る[illegible]一層の発展を心から祈[illegible]

視聴覚教育はどうなった

八月からいよいよ高知[illegible]育テレビが開設され、第[illegible]

夏の思い出

那華山流二

夏は私の活動のハイタイムである。海に山に森に河に、丘を越えてゆこうよ、緑したたる夏草の匂にむせびながら。谷を越えてゆこうよかれんなカジカガエルのメゾソプラノをききながら。山を越えてゆこうよ。峠の涼風を満身にうけて梢からもれるコマドリの歌をききながら。私も思わず歌をくちずさむヤッハハ！ヤッハハ！ヤッハハハノハ。

夏の思い出は数限りなくある。古いものから新しいものまで。コーヒーのような香のある甘い思い出、カルピスの味のするそのそれ、ビールのようなほろにがい思い出と限りなくあるが、さてそれを書くとなると、いくら開放的なヌードの夏でもプライベイトでデリケートなものはいつまでも心の奥にそっとしまっておいて、おぼろげな寝ざめの気分の中でことり静かに味わってみたい。

その一島の女

一昨年の夏ラジオ高知と高知新聞社による沖の島学術調査団が派遣された。私はその団員として勇やくして黒潮おどる亜熱帯の動植物の多い沖の島に渡った。私は専門の貝類の外に陸の動物調査を受持った。朝早く母島の宿を出て六キロほど離れた弘瀬という部落に向ったが、その道は山の腹を曲りくねっていて、はるか下には紺ぺきの海を見おろして眺望絶佳、私の心は緊張の中に旅のたのしさを織りまぜて足の運びも軽くはやくも弘瀬の入口まで進んだ。

目ざす目的地は弘瀬の八幡宮の森林であるが部落に入ると道がいくつもに分れて案内がわからないので道ばたの石に腰を下して地図を見たりしていたら、こつ然として私の前に現われた島の女がある。色は黒いがボリュームのある顔が彫刻的である。お客さんといってニコニコ話しかけてくる。ミスかマダムかはたまたキツネかタヌキの化身か微笑すると白い歯が出るがかみつきそうにもない。私は下腹に力を入れて深呼吸二回、やおら口を開いてお宮へ行く道をたずねた。彼女は先にたって私を案内する。長い石段を上るのにリュックは重く呼吸は乱れる。彼女は私の二三歩前をスッスッと軽く上ってゆくがシッポは見えない。

やがてシイの大木の多いうすぐらい所にきた。大きな根元は板根や丸根が起伏して大蛇がわだかまったようである。私の目はこのシイの幹にそそがれた。そこにはトクサギセルという珍しい陸産貝がついているからである。なかなか見つけにくいが彼女はすばやく見つけて私の手にわたしにくる。手がふれあうと妙なショックを受ける。蛇にさわったような気持と、イモムシにさかったような気持のミックスしたものである。妙にこわくなったので「もう結構です。おかえり下さい」というと彼女の手がヌーと私の腰の方にのびてきた。気持のわるいことおびただしい。いそいでとびさがろうとするがジャング[illegible]では足が思うように動か[illegible]困っていると梢の方で小[illegible]きごえがする「オンカン[illegible]ツケ、オンカン、オチツ[illegible]きこえる。

そのまま立っていると[illegible]私の腰につけている弁当[illegible]ったフロシキをといてい[illegible]女は言う「これを下の家[illegible]ていってお茶もわかして[illegible]ら、お昼ごろになったら[illegible]きなさい」私の弁当はサ[illegible]ち去られた。トビにテン[illegible]とられたような気持で、[illegible]は採集の能率が上らない[illegible]て昼ごろになった。腹が[illegible]はいくさはできない。い[illegible]ができない。80％の不安[illegible]の好奇心をもって彼女の[illegible]った。

エンに腰をかけて簡単[illegible]る予定であったが、彼女[illegible]ビスはごういんでタタミ[illegible]上らざるを得ざること[illegible]た。お膳の上にはナスと[illegible]ャの煮たものやいそ魚の[illegible]ようなものがのっている[illegible]多い。お茶は馬鹿にあつ[illegible]れもこれもまずいのでと[illegible]べられないが食べたよう[illegible]ねばならない。すきを見[illegible]に包んで採集袋にねじこ[illegible]

となりの室で彼女の母[illegible]い人が縫物か何かしなが[illegible]私をにらむ。母親は私を[illegible]ているらしい。少くとも[illegible]少しもない。うちの娘が[illegible]

那華山流二氏
本名　中山　駿馬
本校　生物担当教諭
生徒部長

△　△　△

パンとお菓子はやっぱり
ヨシモト
本店　大橋通り　②0795
支店　ハリマヤ橋　②9979

落付いて勉強できる
ふんいきを作りましょう。
家具の　コトブキヤ
帯屋町中の橋通り　TEL ② 2771

校友の店
高雅堂クツ店
高知市帯屋町一丁目
TEL ② 2960

制服は　高知学服（入交）
中の橋電停北側
電話②2744番

土佐名物東京への御土産に
立石蒲鉾店
本店　京町　電②6279

土佐名物サンゴと
装身具は
池田珊瑚店
高知市帯屋町一丁目
TEL ② 0358

皮革製品専門の店
マエダかばん店
高知市帯屋町一丁目　TEL ②8600, 8601

新しい　魅力の眼
濃いグレーのスマートなスタイル、ファインダーの中に入った露出計の指針、新設計でグッとよくなったヘキサノンレンズ―皆の希望にピッタリです。
コニカSII
¥23,300
ケース ¥1,500
さくらフイルム
東京・日本橋
小西六写真工業